

グループ多摩虫 2008年3月15日 総会資料(2007分)

0、総会 総会は過半数の出席者で成立する。

会員総数; 134 名 本日参加; 名、総会委任状受理; 62名

1、会員

会員内訳: 134名(内女性・学生会員12名)、増減 1名増(新入会員:4名、退会:3名)

2、07年度活動実績と08年度計画

07年度実績			08年度計画
項 目	参加人数	内 容	月度予定
春の行事(山菜ギフ)	15名	群蝶会主催、大杉公園・Hニューオータニ	GWに小平山荘
4月例会 (4/17)	21名	自分史の簡易作成法(早坂) 一人一話	
5月例会 (5/15)	31名	ベニヒカゲについて(中谷)小笠原の蝶(松田)	
6月例会 (6/19)	34名	セリ会、出品19名61点、1,839百円	内容検討中
7月例会 (7/25)	27名	一人一話	
8月例会	休会		例会は休会
夏合宿 (8/4~5)	25名	小平山荘	夏合宿実施予定
9月例会 (9/11)	27名	07中国紀行(北川)	第4火予定
10月例会 (10/16)	33名	ペルー紀行(手代木)、デジー眼レフの使い方(梅村)	
11月例会 (11/28)	30名	モンゴルの蝶(大島) 一人一話	
12月例会 (12/18)	52名	セリ会、出品28名76点、3,119百円	セリ会予定
1月例会 (1/22)	27名	エクアドルの蝶(早坂) 一人一話	
2月例会 (2/19)	32名	北米のパール(徳永)パール繭からの脱出(寺)フーコック島紀行(仁平)	
3月総会 (3/15)	名	総会、	総会
会誌発行		記念50号発行(12月)	51号(6月)52号(12月)発行予定
ミニたま		毎月発行	毎月発行
メーリングリスト、ホームページ		ML参加 105名、投稿数 3627通、HP追加・更新 2.8回/月	
東京都の蝶データ集		報告メール 187通、データ数 2951件	データ収集を継続

3、会計報告

3-1 2007年度実績 と 2008年度予算案

収入の部	2007年度実績		2008年度予算案	
	金額	内訳	金額	内訳
前年度繰越金	△121,437	278,563-4000*95名-2000*10名	125,947	
会費	512,000	4000*122名+2000*12名	512,000	4000×122名+2000×12名
入会金	6,000	1500*4名		
会誌売上	171,050		100,000	
セリ会より	98,800	6月36900 12月61900	60,000	
30周年余剰金	33,443	ワッペン売り上げ等含む		
寄付	10,124			
収入合計	831,417		797,947	
支出の部				
会場費	46,300	4300×9 3300×1	47,300	4300×11回
通信費	49,390	会誌、ミニたま発送含む	80,000	会誌2号分発送費含む
備品費	39,800	プロジェクター代	40,000	
事務用品費	17,668	用紙封筒インク代他	20,000	
会誌作成	419,265	会誌50号記念号	400,000	会誌51、52号分
雑費	11,610	役員会会場費含む	15,000	
次年度繰越金	125,947		195,647	
支出合計	709,980		797,947	

4、会則の改定について

- 第9条 顧問、会長、副会長、会計はそれぞれ1名となっていたのを、会長以外は人数を限定し、こととし、役員数名を置くを、若干名に変更しました。
 - 第10条に役員を選任の条項を入れ、選任方法を決めました。
- 会則の主な改正点は以上ですが、各条項について、内容は変えず、字句の訂正をしました。
 会員心得は不用な部分は削り、表現を改めました。

5、役員補充について

若い会員に会務で活躍していただくために、斉藤基樹、小沢英之の両氏を新たに役員に推薦します
 以上

* 新入会員（宜しくお願いたします）

杠（ゆずりは） 隆史 651-1233 神戸市北区日の峰 1-12-12 T.F: 078-581-1906
 yuzuriha@topaz.ocn.ne.jp

* メール変更

西海 正彦 nishikai@jcom.home.ne.jp

* 9月の例会は第4火曜日（インセクトフェアの日）となります。これは講演者の都合に合わせてましたのでよろしくご了承ください。乞うご期待。

なお健全な会運営のため2008会費も速やかにご納入くださいますようお願いいたします（振替 00180-0-67713）¥4000 学生女性¥2000 グループ多摩虫宛て



チョウ研究 週末は野山巡り

資生堂 針谷 毅さん 46

幼少のころから生き物が好きで、虫捕りや釣りを楽しんだ。小学校の夏休みの自由研究は、決まってチョウや昆虫の標本作りだった。

中学からサッカーに熱中し、以来、生き物からは離れず、読んでいるが、子育てが一段落した2000

1年に、「何か趣味を持ちたい」と考えた。08「ゴルフや旅行も頭

をよぎったが、最も金のいらぬチョウの研究を選びました」と笑う。

自宅のある神奈川に生息するチョウは約100種類。生態をつぶさに観察し、採集し



て標本を作り、カメラで撮影する。所属するチョウの愛好会の会報などで、研究成果を発表することも。

「採集はなるべく少なくし、観察中心を心がけてます」

チョウの活動が盛んな春から秋にかけて、週末はほぼ毎週、野山を駆け回る。網を手に、デコボコした山道を一日に10キ以上走る。本業は肌

に関する基礎研究で、平日はもっぱら研究室に閉じこもる。「山を走ることが、何よりのストレス解消」という。

気がかりなのは、チョウの生育分布が変化している点だ。「屋久島のチョウが静岡

で見つかるなど、だんだんと北上している。そういったチョウを神奈川で見るのはうれしい反面、地球温暖化の影響かと思うと複雑です」

チョウを通して地球を見ています。(田中左千夫)

【ほれ話】チョウの観察は、道なき道に踏み入って、ぬかるんだ場所を歩き回るため、思わぬ事故につながる危険もある。「山奥に入る時は、必ず地図やコンパスを備え、なるべく1人では行動しないように」と助言する。

マニア放蝶？生態系混乱

昆虫マニアが10年ほど前に神奈川県内で放したとみられる中国産のチョウ「アカボシゴマダラ」が首都圏で分布を広げている。大きくて美しくて珍しいチョウが簡単に入手できるようにするため愛好家も増えているが、このチョウは在来種を駆逐し生態系を乱す「要注外来生物指定」。不注意な放蝶で更に分布が広がる恐れがあると、専門家は警鐘を鳴らしている。

(神崎卓征)

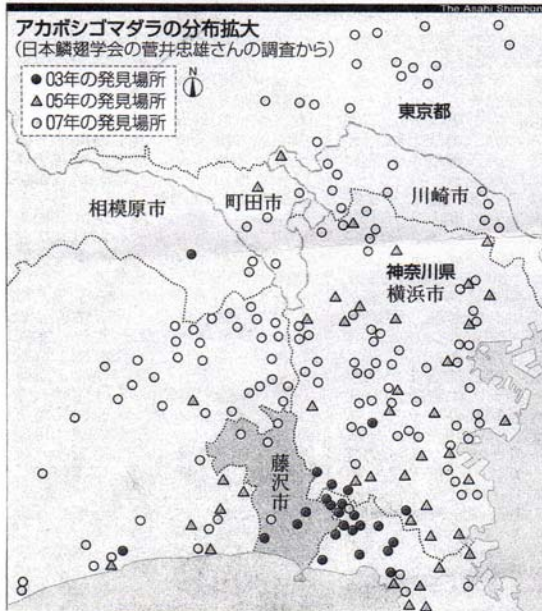


「元々はアカボシの越冬幼虫。飼育はいたって簡単。産地は神奈川県(原産国・中国)」。インターネットのオークションサイトでは、神奈川県内で増やされたアカボシゴマダラの幼虫が取引されている。1匹

08.2.18 朝日

中国産「アカボシゴマダラ」繁殖 春の木独占、在来種駆逐

公園の木にとまるアカボシゴマダラ―神奈川県藤沢市で撮影、日本鱗翅学会の菅井忠雄さん提供



を組むほど人気があった。ところが、98年に神奈川県藤沢市で突然見つかったから発見例が増え、01年には鎌倉市や横浜でも確認。現在は同県内の広範囲に広がった。一昨年から都内にも分布域が拡大。「月刊むし」編集部の中村裕之さんによると、06年ごろに

町田、稲城、八王子市で、今年に入って日野市でも繁殖が確認された。見つかったアカボシゴマダラはすべて中国原産種。台風などで迷ってきたことは考えにくく、神奈川県立生命の星・地球博物館の高桑正敏学芸部長は「誰かがひそかに国内に持ち込んだ虫を繁殖させ、さらに自然界で増やそうと、藤沢でまとまった数を放したとしか考えられない」と話す。外国から生きたチョウを持ち込むのは植物防疫法違反で、「放蝶が리라」と他のチョウよりも先に活

呼ばれる行為だ。その後の自然繁殖で、かつての希少種は近郊の野山や公園で手軽に捕まえられるようになった。チョウを繁殖させ幼虫から育てたサナギが羽化するのを観察、感動を楽しむ愛好家が多いが、アカボシゴマダラは特に好まれ、幼虫売買などが広がっているらしい。

中国産のアカボシゴマダラは、幼虫が地表の落ち葉などで越冬する在来種のチョウと違い、木の幹や枝で越冬する。春に他のチョウよりも先に活動を始めて木を独占するため、ゴマダラチョウなどの在来種への影響が心配されるといふ。高桑さんは「리라行為以外に、羽化させたあとで飛び回らせてあげたいとか、自然を回復させたい」としてチョウを放す人もいるが、生態系を混乱させることはやめてと話す。放蝶が리라とみられるチョウの発生は、70年代末から80年代初め、八王子市周辺や神奈川県相模原市に朝鮮半島産とみられるアゲハチョウの仲間のホソオチョウの例がある。この時に放たれたチョウは今も関東各地で世代交代を繰り返して繁殖しているといふ。